

「本当の+N」の意味展開

— 3つの用法を中心に —

鄭 柄ミン

1. はじめに

『日本国語大辞典』によると、「ほんとう」は「(1)偽りでなく事実・真実であること。(2)もとの筋道であること。本来。(3)事実がはなはだしいこと」を表す形容動詞だと定義されている。つまり、「本当」は事実・真実・現実に関するコメントを表す単語であることが分かる。

「本当」には興味深い曖昧性がある。まず、次の「本当の+名詞」(以下、「本当のN」のように名詞をNで指す)はNの意味によって異なる意味を持つ。

(1) 本当の親

(1)は、二通りの意味を持つ。一つは、「産んでくれた親(実の親)」のような意味であり、もう一つは、「最も親らしい親」のような意味である。「本当の親」の両面性を事例から確認されたい。

(2) お糸は京之助に強く頼んだ。お夏を本当の親である母「お園さん」に会わせてあげて欲しいと…。どんな約束が、どんな義理があるか知らないが、今会わせなければ、もしかして一生、機会を失ってしまうかも知れない。(PB39_00526、71670、加藤直(2003)『雪原の夢』BCCWJ、下線は筆者による、以下同じ)

(3) 叩いてはいけない時、叩いてでも教え込まなければいけない時があるんだ。それは何を基準に、どの程度にするか?それを考えるのが本当の親なんだ。(PB54_00148、54730、)内海正彦(2005)『自然から学んだお爺ちゃんのお知恵袋』BCCWJ)

(2)は、産んでくれた「親」(本当の親)と育ててくれた「親」(本当ではない親)の中から、「お夏を産んでくれた親(お園さん)」を指示している。ここから、「お園さん(本当の親)」以外の「親」は「育ててくれた親(本当ではない親)」であるという裏の意味が発生する。つまり、(2)の名詞句「本当の親」は「実の親(お園さん)」という「対象」を指示するために、「本当ではない親」が存在していることを暗示している。これに対して、(3)の「本当の親」はある対象を指示しているのではなく、「親」という名詞の属性を問題にしていれば「あるべき親」と言った意味で使われている。

さらに、「本当のN」には「偽物」の反意語というべき用法もある。例えば、

(4) このダイヤモンドは本当のダイヤモンドです。(作例)

(4)の「本当のダイヤモンド」は、「偽物のダイヤモンド」も存在していることを暗示しつつ、話し手が指示している「ダイヤモンド」が「偽物のダイヤモンド」ではなく「本物のダイヤモンド」であることを表している。これは前述の「育ての親でなく産みの親」という意味での「本当の親」の用法に近いが、「本物」に置き換えられる点でここでは別扱いをしておきたい。

本稿では、「本当のN」が(2)(3)(4)のような3つの意味を表す理由は名詞の指示性と属性にあると想定して論を進めていく。あわせて、「本当のN」に置き換えられる表現である「本物のN」、「本来のN」、「実のN」、「真のN」などの使い分けも考えてみたい。

(5) {本当／本物／?本来／?真／?実} のピラミッドが見たい。(作例)

2. 先行研究

大久保(1997)は、「本当のN」がカテゴリーNに関する認識にプロトタイプ効果をもたらし、そのカテゴリーの中心的なメンバーを特定する修飾表現であると定義している。水田(1996)にも、「本当のN」について言及しているところがある。使われている用語は異なる(水田は「salient」とする)が、「本当のN」がプロトタイプ効果をもたらす表現とみなしている点は、大久保(1997)と同様である。

大久保は、「本当のN」が持つ意味を、カテゴリーNの中心メンバーを判断するという立場から大きく①「ほんものにとせもの」、②「社会的ステレオタイプ」、③「『実物』と表象」、④「強調表現」の四つがあると述べている。次は、大久保(1997:21-29)が意味定義と一緒に提示している例文である。

(6) この人形には、ほんとうの髪の毛が使っています。①(下線は筆者による。以下同様)

(7) バリで、もう10件ばかりためしてみたけど、この店ほどおいしくて、ちゃんとしてるところはないよ。ここではほんとの日本料理が食える。絶対だから。②

(8) バリについて三週間後にやっと(写真や絵はがき、Tシャツの図柄などではなく)ほんとの／ほんもののエッフェル塔を見た。③

(9) 日本での生活を考えると、ただこうやってサンドイッチとかを毎日庭にパラソル立てて食べたりする、こういうのがほんとのぜいたくだよね。④

しかし、全ての「本当のN」がカテゴリーNに関する認識にプロトタイプ効果をもたらし、中心的なメンバーを特定しているという論旨には疑問が残る。なぜなら、(6)の「本当の髪の毛」は全ての「髪の毛」を扱っていると言うより、「本物の髪の毛」に焦点を当てて「偽物の髪の毛(化学物質で作った髪の毛、3Dプリンターで作った髪の毛…)」との対応関係を取り上げているのであり、「中心Nの中心メンバー」というフレームでまとめるべきでないからである。

一方、(7)の「本当の日本料理」は全ての日本料理(カテゴリーN)の中から最も日本料理ら

しい日本料理であること（プロトタイプの日本料理）を表すと言える。

3、4、5節でも詳しく述べるが、(6)(8)の「本当のN」は「本物のN」、(7)(9)の「本当のN」は「真のN／本物のN」と置き換えることができる点から、異なる使い方に分類することができる。また、(2)の「本当のN」は「本来のN／真のN」と置き換えることができる。このような置き換えの関係を整理することが必要だと思われる。

本稿は、(4)(6)(8)のような「本当のN」は「偽物ではないN」の意味を持つと定義し、(3)(7)(9)は「最もNらしいN」の意味を持つと定義する。また、大久保（1997）では扱っていない使い方で、例文(2)の「本当のN」は「2つの対応関係を持つN」の意味を持つと定義する。

3. 2つの対応関係を持つN

まず、(2)の「本当の親」の「親」の名詞としての特性から考えてみたい。「親」という名詞は「親というもの」というジェネリックな用法もあるが、「誰の」親であるかが提示されることで指示対象が規定できるという用法もある。つまり、「親」は「Aの親」「Bの親」のように対応関係によって指示される「親」が変わることになり、「Aの本当の親」は「Aという人の実の親」を指示することになる。

ここで、「Aの本当の親」という表現を用いて「Aという人の実の親」を指示するためには、「Aの本当ではない親（Aを育ててくれた親）」の存在が裏に必ず含まれる必要があることに注目すべきである。もし、産んでくれた親と育ててくれた親が一緒であり、二つの親を分ける必要がない人が親を指示する場合、(10)が最も自然な例文になり、(11)のように「本当の親」で表すと違和感がある。

(10) この人は私の親です。（作例）

(11) この人は私の本当の親です。（作例）

ここで、この後者の用法のNは西山（2003）の「非飽和名詞」と基本的に重なる。西山（2003: 33）は、「非飽和名詞」を「主役、優勝者、創立者、作者…」のように「『Xの』というパラメータの値が定まらないかぎり、それ単独では外延（EXTENSION）を決めることができず、意味的に充足していない名詞」とする。ただし、名詞としては「本当のN」のNが「非飽和名詞」でない場合もあり、また飽和名詞であっても対応関係が問題になることがあるということは重要である。

例えば、「誕生日」という名詞はごく一般的に「誕生日は大切な日だ」といった用法がある。これは飽和名詞の用法である。一方で、非飽和名詞的に「自分にとっての誕生日」というようにパラメータの値を指定した上で「今日は今までの誕生日の中で最高だ。このような誕生日こそが本当の誕生日だ」のように典型的あるいは理想的指示対象を固定して言う場合もある。この場合「本当の誕生日」でない「誕生日」は決して「誕生日」でないわけではない。そして、これとは

別に、例文(12)の「本当の誕生日」のように明らかな「対応関係を持つN」の対応関係を問題とするという意味もある。

- (12) 西暦二百年頃は、5月にキリスト降誕祭が行なわれていましたが、西暦三百年頃に、このクリスマス十二月二十五日に移したようです。キリストの本当の誕生日がいつかは、聖書には記されていません。(LBb3_00027、31160、ミッキー・フェルト(1987)『アメリカ歳時記』BCCWJ)

この場合は本当の誕生日が「本当でない誕生日」とは別に存在していることになる。

ここで指摘しておきたいのは、「本当の誕生日」が「キリストの」によって制限され、非飽和名詞的に特定の値が指定される場合において、対応関係が複数考えられるということである。すなわち「本当のN」が「2つの対応関係を持つN」を表すためには「N」が特定の対象を指示している必要がある。「N」の対応関係を制限する「Aの」という存在があり、「本当のN」が「Aの」によって指示物を明確に定めることで「Aの本当のN(キリストが実際生まれた日)」が指示され、その裏に「Aの本当ではないN(十二月二十五日)」が問題にできる。いわば「Aの+本当の+N」という構造があることが「2つの対応関係を持つN」を表す前提条件になる⁽¹⁾。実際、「2つの対応関係を持つN」を表す「本当のN」を確認すると「Aの」が「本当のN」と共起していることが分かる。

このように、全ての「Aの+本当の+N」が「2つの対応関係を持つN」を表すわけではないが、逆に、二つの対応関係を持つには「Aの+本当の+N」という特定の値が必要である。もう一つ「名前」を例にすれば、

- (13) ケンの本当の名前は健太郎で生粋の日本人だが、アメリカに渡ってきてから七十年近くが過ぎた今では、ケンという愛称の方が彼の本当の名前になっていた。(PB29_00442、45130、夜月桔梗(2002)『恋の紳士協定』BCCWJ)

という例で提示されている「ケンの本当の名前」は生まれつきの名前である「健太郎」であるが、裏には「本当ではない名前(愛称の名前=ケン)」があり、名前の持ち主というパラメータがあることでその指示対象が問題にできる。

一方、特定の対応関係を持たない次のような例では、「本当の対応関係」「本当でない対応関係」は問題になり得ない。

- (14) たくさんの使用人たちに囲まれて成長し、家庭教師から教育を受け、人生の本当の喜びや悲しみを知ることもなく育った富豪の子供たちに対して私は、本当にかわいそうだと思います。 (LBe3_00049、39580、アンドリュー・カーネギー(著)/田中孝)

(1) 「Aの」がなくても文脈情報によって「本当のN」の指示対象が明確に特定されると「2つの対応関係を持つN」を表すことが可能になる。この使い方に対しては(20)で実例を挙げることにする。

顕（訳）（1990）『自分がして欲しいことはまず人にそれを行え！』BCCWJ)

(14)では、「人生の本当の喜びや悲しみ」を特定することができず、「最も喜びらしい喜び」・「最も悲しみらしい悲しみ」という意味を持つため「最も Nらしい N」という意味を持っていると言える。ここで使われている「喜びや悲しみ」はある指示物を指示しているのではなく、「人生」の性質・属性を表しているため、対応関係が定まらない。従って、「A の+本当の+N」の「N」は必ず指示性を持つ必要がある。

言うまでもないことであるが、対応関係を問題にする用法での値の限定は、(2)のように、形として「A の」がなくてもできる。この例で言えば「お夏」が文脈上固定されていることで「お夏の本当の親（お夏を産んでくれた親）」を指示することが可能だからである。明らかな「A の」が存在しなくても文脈上で読み取れる部分があれば「2つの対応関係を持つ N」は成立する。特に、「私の」のような「A の」は省略される場合が多い。

(15) この鬼婆アの子供ではなかった、という発見は私の胸をふくらませ、私は一人のとき、そして寢床へはいったとき、どこかにいる (私の) 本当の母を考えて、いつも幸福であった。(LBf9_00143、33780、坂口安吾（1991）『ちくま日本文学全集一石の思い—』BCCWJ、()は筆者による)

「A の」なしに使われるのが一般的な次の用例の中にも、「A の」の正体分かる情報が含まれている場合は「A の」が省略されていると言える。「A」が次のように特定の個体でなく集合的に取り上げられる場合もある。

(16) (作家の) 本当の名前はペンネームより長い傾向がある。(作例)

「2つの対応関係を持つ N」を表す「本当」は、「本来」（親族関係を表す場合は「実⁽²⁾」）に置き換えることができる。『日本国語大辞典』によると、「本来」は「はじめからその状態であること」を表すため、「本来の」は、「もともともの」にも近く、対応関係の設定後に変化が起こったことを暗示する。また、5節で詳しく述べることになるが、「真」との置き換えも可能である。従って、

(17) 「本当の親」「本当の母」→「【実／真】の親」「【実／真】の母」

「キリストの本当の誕生日」→「キリストの【本来／真】の誕生日」

「ケンの本当の名前」→「ケンの【本来／真】の名前」

が成立することが分かる。しかし、「最も Nらしい N」を表す「本当の N」は「本来」「実」と置き換え難いことが確認できる。

(18) 「人生の本当の喜びや悲しみ」→「? 人生の本来の喜びや悲しみ」

(2) 『日本国語大辞典』によると、「じつの」は「本当の」「真実の」の意味以外にも、「人間の間柄を示す語に付いて、血のつながりのある関係にあることをいう」の意味を持っていると定義されている。つまり、「実の N」の Nには血のつながりがあることを表す親族名詞が使われる必要がある。

このような関係を持つことから、「本来」「実」との置き換え関係は「本当のN」が「2つの対応関係を持つN」を表しているかを確認する基準にもなると思われる。

4. 偽物ではないN — 「本物のN」

前節では、「本当のN」が「本当でないN」を相対化する場合として、「本来のN」が「偽物の存在」を暗示するという場合を示した。

次に「本物」に当たる「本当の」について考えてみたい。例えば、大久保（1997）の例文から確認すると、(8)の「本当のエッフェル塔」が指示しているエッフェル塔はフランスのパリに存在している本物のエッフェル塔である。その裏に「偽物のエッフェル塔」が存在していることは暗示しているものの、その「偽物のエッフェル塔」が何かに対しては特定していない。写真・絵はがき・Tシャツの絵・おもちゃ・模型…のような様々な表象も含め「本物以外」（偽物）のエッフェル塔を想定することが可能である。

これには一種の理想化が関わる場合がある。「本当のN」が「偽物ではないN」を表す他の用例からも確認できる。

- (19) 私の楽しみはお経が終ったあのおときであった。数十人の人の為の炊き出しで、強火で大きな釜で炊かれるので白い御飯でありながら、本当の白米はこんなうまさかと思われるようなおかりがするのである。(LBa5_00003、7090、南広子(著)/安達 健二(著) (1986)『日本の郷土料理』BCCWJ)

(19)の「本当の白米」は「数十人の人の為の炊き出しで、強火で大きな釜で炊かれる白い御飯」を指示し、一種理想的なあり方として示されている。その裏に「偽物の白米」を暗示するが、「偽物の白米」が何か（例：電気炊飯器で炊いた白米、少人数のために炊いた白米、火力が弱いところで炊いた白米…）に対しては特定していない。

このように「本当のN」が「偽物ではないN」を表すためには「N」がものを指示して「偽物のN」が明確に特定されない必要がある。「Aの本当のN」のように「Aの」が存在していなくても、文脈によって「偽物のN」が特定される場合、「2つの対応関係を持つN」の意味を表すことになる。

- (20) でも、愛の名のもとに捨てられるような仕事は、本当の仕事だったのでしょうか。もしあなたの仕事が、有能な雑誌記者というのではなくて、たとえば、プロのピアニストとか、小説家だったとしても、結婚によって、あるいは恋人の要望によって捨てられる程度のものであれば、やはり本当の仕事だったとはいえないのではないのでしょうか。(LBe9_00219、25530、瀬戸内寂聴(1990)『寂庵だより』BCCWJ)

(20)の話し手は「本当の仕事」は「何があっても捨てない仕事」であり、「愛のために捨てる仕事」は「偽物の仕事」としている。ここでの「本当の仕事」は、「本物の仕事」と言い換える

ことができる。

「偽物ではないN」を表す「本当」は実際の「本物」を指示している表現であるため、「本物」と置き換えが可能である。実際、『日本国語大辞典』によると「本物」は「ほんとうの物」の意味を持っていると定義されている。また、「偽物ではないN」を表す「本当」は「本来(実)」「真」と置き換えが難しい。「本来」は論理的な来歴関係から対応のあり方を取り上げることができるのに対し、「本物」は属性のあり方を特に取り上げているとも言えることができる。

(21) 「本当の白米」→「本物の白米」

「?【本来/真】の白米」

以上、「本物の」との置き換えができる「本当のN」は、擬似的なもの、理想的でないものなど、広い意味での「偽物」があり「偽物ではないN」として位置づけられることを見た。

5. 最もNらしいN

前節に述べたものに連続して、「本当のN」のNが「属性」を表す際には「最もNらしいN」の意味を持つ。これは、カテゴリーNのプロトタイプを表すことになる。

(22) こういう感情、相手と逢ってる時とは別のもので、夜など独りになった時、じわじわと沸いてくることが多い。二人が遠く離れていたり、何らかの障害をかかえている場合は、特にそうだ。しかし、思うほどに切なくて苦しい—この気持こそ、本当の恋というものだろう。(LBc7_00013、26610、宮本英世(1988)『こんな時なにを聴く』BCCWJ)

(22)の「本当の恋」は「最も恋らしい恋」の意味を持ち、「2つの対応関係を持つN」「偽物ではないN」のように他の存在(「本当ではないN」)を積極的に暗示するわけではない。

「N」が「属性」を表すからといって必ず「N」が性質・属性のみを表す必要はない。例えば、ものを指示する名詞であっても「N」の文脈や先行知識などを用いて「最もNらしいN」を表すことができる。(23)の「本当のアメリカ」の「アメリカ」は元々対象(北アメリカ大陸に位置する国)を指示する名詞であるが、「アメリカ」という単語が持っている様々な象徴性(自由、豊、広大さ…)によって「アメリカ」の属性を表すことになるため、「アメリカ」というプロトタイプを提示していると解釈するのが妥当である。

(23) ニューヨークやロサンゼルスは本当のアメリカではない。西部は広すぎるし、砂漠だけだ。アメリカ人の郷愁はここ中西部に向かう。(PB33_00558、2650、柳下毅一郎(2003)『殺人マニア宣言』BCCWJ)

この例では「偽のアメリカ」があるわけではないが、「アメリカ」の典型に向かって一定の連続性があり、そこでの「アメリカらしさ」が問題になっていると言える。同じく、(1)で提示した「本当の親」は「本当の親」と「本当でない親」の対応関係だけでなく、「親」という名詞に象徴性(大人しい、家族を保護する、暖かい…)があるため、「最も親らしい親」の意味も持ち、「2

つの対応関係を持つN」と「最もNらしいN」の両方を表すことができる。

また、属性を表すNが使われたとしても、文脈で「本当ではないN」の定義が行われ、「本当ではないN」が明確に特定される場合は「2つの対応関係を持つN」を表すことになる。

(24) つまり、妹の死によって母は変った。須永はこれ以上追求していないが、実の子が死んだことで扱いの変るような愛情は、御都合主義であって、本当の愛清ではない。

(LBe9_00133, 20240、米田利昭 (1990)『わたしの漱石』BCCWJ)

(24)では「偽物の愛情」＝「御都合主義」と特定しているため、「本当の愛情」が「偽物の愛情」と「2つの対応関係を持つN」を表す。

厳密に言えば認知的な意味での「プロトタイプ」であるということよりも、話し手／書き手が考えている「理想的なN」であることを表すこともある。「理想的なN」は話し手が考えている望ましいNが「最もNらしいN」になるため、話し手の価値判断が入るといった特徴がある。次の例を見られたい。

(25) ソファに腰かけたポールは祈るように両手を組んだまま、永島達司について話し出した。

「タツと初めて会ったのはビートルズが日本でコンサートをやった時だ。…(略)…そして、僕にとってのタツは、そんな日本に対する僕の理解と同じなんだよ。タツは背が高い。誰よりも立派な英語を話す。マナーも西洋的だ。でも、彼の本質はサムライのような日本人だよ。…(略)…彼みたいな男が本当の日本人だ」(LBn2_00008, 31350、野地秩嘉 (1999)『ヤァ！ヤァ！ヤァ！ビートルズがやって来た』BCCWJ)

普通の日本人のプロトタイプは「西洋人より背が低い」「日本語を話す」「マナーは東洋的」などの特徴を持っていることが予想されるため、用例の永島達司は日本人のプロトタイプに近い人とは言いがたい。それにもかかわらず、ポールは永島達司を「本当の日本人」と呼んで「理想的な日本人」であることを示している。つまり、「本当のN」が「理想的なN」を表す際には、「最もNらしいN」は話し手にとって理想のNを表し、話し手／書き手の価値判断も含まれることになる。

同じく、(26)の「山の本当の偉大」は山のプロトタイプを述べていると判断するより、「山の偉大さ」という属性を表すことで「話し手が考える理想的な偉大さ」を述べていると判断するのが妥当である。

(26) しかしその時には私はまだ山登りをすることがやっと出来るか知らんと思った位で、まだ山の本当の偉大というものに少しも触れなかったのである。(LBh2_00038, 21280、田部重治 (1993)『新編山と溪谷』BCCWJ)

要するに、「偉大」のように物を指示することができず、専ら性質／属性を述べるNが「本当のN」に位置すると「話し手が考える理想の属性」を表すことになる。用語の問題であるが、「悪人」「泥

棒」「最低」のように望ましいNとして扱い難いNは「理想的なN」とは呼びにくい。「本当の悪人」「本当の泥棒」「本当の最低」は「プロトタイプのN」と呼んでおくことにしたい。

また、「偽物の存在を暗示する」ことと、「プロトタイプあるいは理想的なものに該当するか否か」を判断することは連続的でもある。例えば、(27)は「プロトタイプの勉強」を強調するために、「本当ではない（偽物の）勉強」の定義も行なっていることが確認できる。

- (27) 「こんなことをやっていて、役に立つのだろうか」と思うような役に立たないことが、勉強になってきます。… (略) … まわりから見てあの人はよく勉強していると思われるようなことは、実は本当の勉強ではないのです。(PB31_00111、67980、中谷彰宏(2003)『オンリーワンになる勉強法』BCCWJ)

つまり、「2つの対応関係を持つN」と「偽物ではないN」も連続してはいるが、「本当でない（偽物の）N」の存在を前提とするのと比べ、「あえて偽物とまでは言えないものの、プロトタイプ・理想のNだと言えるかどうか」という点を問題にするものである。従って、この用法は特に属性に焦点をあてて「プロトタイプのN」・「理想のN」と「プロトタイプのNではない」・「理想のNではない」を判断している用法だと言える。

『日本国語大辞典』によると、「真」は「いつわりでないこと、仮でないこと」を表すため、「最もNらしいN」を表す「本当のN」は「真のN」に置き換えることができる。「プロトタイプ・理想のN」が真偽関係の「真」として扱うことができる（プロトタイプ・理想的ではないNは「偽」）ため、「真」と置き換えができるようになる。同じ意味で「本物」も「プロトタイプ・理想のN」を「本物」、「プロトタイプ・理想のNではない」を「偽物」として扱うことができるため「本物」との置き換えも可能である。一方、「最もNらしいN」を表す際には「本来」との置き換えは難しい。

- (28) 「本当の恋」「本当のアメリカ」「本当の偉大」「本当の勉強」→「【真／本物】の恋」
「【真／本物】のアメリカ」「【真／本物】の偉大」「【真／本物】の勉強」
「? 本来の恋」「? 本来のアメリカ」「? 本来の偉大」「? 本来の勉強」

3～5節で確認した「本当」と「本来（実）」「本物」「真」の置き換え関係は3つの意味を区分するときだけでなく、「本当のN」の3つの意味の連続性を判断するときでも使える。詳しくは7節でまとめることにする。

6. 「本当の意味で（の）N」「本当のこと」「本当のところ」

この節で扱う「本当のN」は特別な形を持っている「本当のN」である。まずは「本当の意味でのN」の使い方を確認する前に、「Aの本当の意味」は「2つの対応関係を持つN」の意味を持っていると解釈して問題ないと思われる。

- (29) 同じ中国人として、学生や市民の要求はよく理解できるし、その考えには賛成である。

しかし同時に、僕の語りたいことの本当の意味が日本語で十分に伝えられるかとなると自信がない面もある。(LBf3_00105、2460、陳沢禎 (1991)『愛すれど不可解、日本』BCCWJ)

(29)の「本当の意味」は「僕の語りたいことの本当の意味」を指示しているが、その裏には「僕の語りたいことの本当ではない意味」が含まれている。

しかし、「本当の意味で (の) N」は「理想的な N」の意味を持つことになる。これは既に定着されている表現であるため特別に扱うことにする。

(30) 賛成できないという自分の立場も守れると同時に、相手の立場も認められるわけですよ。これが本当の意味での共存なんです。(LBg7_00055、34480、大林宣彦 (1992)『さびしんぼう乾盃!』BCCWJ)

「こと」「ところ」は物の指示と属性を表すことができない N であるため、「本当のこと」「本当のところ」も同じく特別に扱うことにする。「本当のこと」「本当のところ」は「事実」と同じ意味を持つことになる。

(31) 「そうですか。これで安部君はなんでも知っていますからね。本当のことを言った方がいいんですよ」(LBf9_00205、31500、清水一行 (1991)『兜町物語』BCCWJ)

(32) 意識の問題に正面から取り組んでいる脳生理学^ニ老に聞いてみればすぐにわかることだが、それは一つの仮説にすぎない。本当のところはまださっぱりわかっていないというのが実情である。(LBg4_00006、30470、立花隆 (1992)『脳死臨調批判』BCCWJ)

7. 「本当の N」の意味の連続性

以上のように、「本当の N」の意味は「2つの対応関係を持つ N」「偽物ではない N」「最も Nらしい N」の三つに分類できる。これらは連続した意味体系を成している。

「本当の N」そのものの根本的な意味の根底には、「本当の N」「本当ではない N」の対立がある。ここから、「本当の N」の「N」が物を指示して「A の本当の N」の構造を持つ際には「A の本当の N」を指示するために「A の本当ではない N」の意味が裏に含まれていることを表す。つまり、「A の本当の N」と「A の本当ではない N」という「2つの対応関係を持つ N」の意味を表すことになる。「本当」が2つの対応関係を持っている場合には「本来」(家族関係を表す時は「実」)「真」と置き換えができ、「本物」とは置き換えが難しくなる。次は「2つの対応関係を持つ N」の用例である。

(33) 病人の熱気ではなく、不意に自分の本当【/本来/真】の声を見つけ、その声にかたちを与えようとして、胸をふくらませて熱中している人間の熱気であった。(LBb9_00054、94340、ヘンリー・ミラー (著)/吉行淳之介 (訳) (1987)『愛と笑いの夜』BCCWJ)

次に、「本当の N」の「N」はものを指示するため、「本当の N」は特定されても「本当ではな

いN」が特定されない場合、「偽物ではないN」の意味を表すことになる。「2つの対応関係を持つN」と「偽物ではないN」は「本当のN」を指示し「本当ではないN」を暗示する点で連続的である。

しかし、「偽物ではないN」は「本当ではないN」を特定せず、「おもちゃのN」「模型のN」「写真のN」など様々な「偽物のN」が存在可能である。また、「2つの対応関係を持つN」のように「Aの」の存在や「偽物のN」の情報を文脈で補助する必要がない相違点がある。「偽物ではないN」を表す「本当」は「本物」と置き換えることができ、「本来」「真」とは置き換えられない。次は「偽物ではないN」の用例である。

- (34) さて、池や沼の水の中に住んでいる、目だたない生き物の中に、ヒドラというのがあります。ギリシア神話やアンデルセンのおとぎ話などでは、ヒドラというのは、頭がいくつもある恐ろしい怪物ですが、現代の池の中に住んでいる本当【／本物】のヒドラは、ほんの数ミリの大きさの無害な動物にすぎません。(LBh4_00020、4330、長谷川眞理子(1993)『オスとメス＝性の不思議』BCCWJ)

「本当のN」の「本当でないもの」の存在がほとんど暗示されない場合は「最もNらしいN」を表す。「2つの対応関係を持つN」と「偽物ではないN」が、「本当でない(偽物の)N」の存在を前提とするのと比べ、「あえて偽物とまでは言えないものの、プロトタイプ・理想のNだと言えるかどうか」という点を判断にする。(35)のNは物の指示と属性の両方を表せるNであるため「プロトタイプのN」と「理想のN」の解釈ができ、(36)のNは属性のみを表すため「理想のN」を表すことになる。

- (35) しかし、演劇一筋で何十年もやって来た河内としては、団員の女の子をアイドル歌手に仕立て、その収入で食べて行くということには、どうしても抵抗を感じないわけにはいかなかったのである。一方で儲け、一方できちんと本当【／本物／真】の演劇をやればいい。(LBc9_00001、17870、赤川次郎(1988)『三毛猫ホームズのクリスマス』BCCWJ)

- (36) 「肝心かなめなことはね、同性愛の男同士がやる行為は醜悪で、いやらしいから、あとで彼らは、自分自身がむかつくほどいやになるってことなのよ。だからそれをいやすために、連中はお酒を飲んだり、麻薬をやったりするってわけ。でもその行為自体にむかむかするから、連中は絶えず相手を変えるし、結局本当【／本物／真】の幸せはつかめないのよ」(LBf9_00202、57520、金関寿夫(1991)『現代芸術のエポック・エロイク』BCCWJ)

つまり、「最もNらしいN」は「N」を「プロトタイプ・理想のN」を判断している表現であるが、その裏には「プロトタイプ・理想ではないN」はNとして除外しながら「プロトタイプ・理想のN」を判断していることになる。

これは「2つの対応関係を持つN」と「偽物ではないN」が「本当のN」と「本当でないN」を扱うのと構造的に類似している。

次に、「最もNらしいN」は「本来」と置き換えられず、「真」「本物」と置き換えられる。これは、「2つの対応関係を持つN」が「真」、「偽物ではないN」が「本物」と置き換えられる点で連続的である。

また、「偽物ではないN」は「偽物のN」を特定せず、「Aの」を必要としない特徴を持っている。「最もNらしいN」も「プロトタイプ・理想ではないN」が何かに対する具体的な定義を行わず、「Aの」・文脈や先行知識によるNの制限を必要としない点が意味的に連続している部分だと言える。

「本当のN」の3つの意味を図式化すると次のようになる。

① 2つの対応関係を持つN

指示している対象	暗示
本当のN ≡ 本来の・真のN	本当ではないN

② 偽物ではないN

指示している対象	暗示
本当のN ≡ 本物のN	本当ではないN (おもちゃのN、 写真のN…)

③ 最もNらしいN

1) プロトタイプのN

Nの属性を全て満足しているN	本当のN ≡ 本物の・真のN
1つの属性が足りないN	本当ではないN (積極的に暗示されない)
2つの属性が足りないN	
…	
Nの属性が全くない	

2) 理想のN

話し手が考えて最も望ましいN	本当のN ≡ 本物の・真のN
2番目に望ましいN	本当ではないN (積極的に暗示されない)
3番目に望ましいN	
…	
全く望ましくないN	

「本当の+N」の意味展開

ここで「本当は」についても触れたい。これはいわば理想の世界を作って提示するという副詞と言える。この用法は、「本来あるべきものは」に相当するような理想の世界を示す。逆に言えば現実世界は「本当ではない」ことを暗示する。「本来の」が対応関係を表すのに対して「本来、～」という連用関係の場合、理想世界の設定と実際に実現した現実世界のあり方を対応させるものとなっている。

- (37) … (略) …「安もんよ、母さんみたいなハイレベルな女には似合わないわよ」とか何とか言ってようやく取り上げられずに済んだのだ。本当【本来】はハイレベルじゃなくてハイエイジと言いたかったんだけどね。(LBa9_00104, 2070, 唯川恵 (1986)『少しだけラブストーリー』BCCWJ、【 】は筆者による)

連用的用法という点では、付言ながら、「本当に」は程度修飾など全く別の用法もある。例えば、「本当に暑い」は、「暑い」が程度を表す形容詞であるため、暑さの様々な段階から最も上の段階の暑さの状況であることを表すことになる。しかし、これも「プロトタイプのN」という関係に連続している。また、「本当に彼のメガネだ」は「彼のメガネである」「彼のメガネではない」という一致関係を扱い、確認しなおすような意味を持つ。前者は属性の典型性としての程度性へ、後者は「2つの対応関係を持つN」と言う関係から対応関係の真偽のチェックへ、というように判断構造を修飾するようになっていると言える。

「本当のN」と「本当は」「本当に」は文中での役割がそれぞれ異なるが、意味上の繋がりがあるという点で、「本当」の意味の展開として扱うことができる。

8. おわりに

最後に、本研究で考えたことを整理しておきたい。

第一に、名詞の意味関係によって、「本当の」のような構造でも解釈の違いが発生する点を明らかにした。従来の研究では、「本当」が表す意味の考察に主眼が置かれていた。これに対して本稿は、「本当の」が修飾する「名詞」の意味までを考察することによってはじめて名詞句「本当のN」の意味の分析が可能となる点を主張した。

第二に、「本当のN」の三つの用法から「本来(実)」「本物」「真」との置き換え関係を分析した。そうすることで「2つの対応関係を持つN」「偽物ではないN」「最もNらしいN」との連続性を確認することができた。

第三に、プロトタイプと理想性を分けて考えることにもふれておきたい。「本当のN」の「理想性」の拡張である「本当は」の用法なども、この観点から考えることでより明らかになってくる。要するに、「プロトタイプ」と「理想性」は、関連はするが同じではないのである。

今後、さらに反事実表現での「本当は～」なども含めて、「本当」の拡張的用法についても位置づけていきたいと思う。

参考文献

- 大久保朝憲（1997）「『ほんとうの』発話レベルのカテゴリー形成」『大阪大学言語文化学 6』pp.19-32.
西山佑司（2003）『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』ひつじ書房.
水田洋子（1996）「『本当の』をめぐるカテゴリー考」日本認知科学会13回大会発表資料.

参考辞典

『日本国語大辞典 第二版』小学館.

コーパス

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ 中納言2.4.5 データバージョン 2021.03』（サンプル ID、開始位置、著者（出版年度）『書名』順で出典表記）.